



## 國際道路會議の視察旅行に就て

藤 井 眞 透

愈々九月三日から八日迄ドイツ國ミュンヘンで第七回國際道路會議が開催される、議題一に關する各國の報告を一括してデツカーホーフが説明する事になつてゐる、ウイスバーデンの例のドツペルセメントの社長である、議題二はベルリンの國立材料研究所のキンドセル博士である、同三はババリア州ノイウルムの道路河川局の技師フーバーである、同四はザクセン州經濟省の局長ハイエンクである、同五はブラウンスクイグ州工科大学教授ラーベン氏で同六はベルリンの前書記官フロンシエンクである。

會議と同時に道路展覽會は己に六月九日から開かれてゐる、會議後の視察旅行は五班に分れ九月九日から始り一八日迄にベルリンに集るので何れも一六五RMを要する。

その行程は次の如く圖面に示すが如し。

第一班、中部獨逸、東プロシア方面  
ミュンヘンをバスで出發しニュルンベルクに向ひ、チューリンゲンの森を過ぎてワイマールにゆく、ゲーテの町である、之より汽車で波蘭の廊下地帯を過ぎて東プロシアのマリエンブルクにゆく、バスでヒンデンブルクの臨終地ノ

イデツク、タンネンベルグ戦勝記念塔その他を見て故都ケーニヒスベルクにつく、之からタンチヒ及ツワポトに向ひ之から汽船に乗じてオーデルの河口に向ひ、バスでステツチンを経てベルリンに一八日の夜到着する。

専用自動車道の國營の工事中的ものは、エルビング・ケーニヒスベルグ間、ベルリン・ステツチン間である。

## 第二班、獨逸西部、北海及東海岸

本班は全部バスで先づ學都スツツトガルト、舊き大學町ハイデルベルグを見てフランクフルトアムメインにゆく、ライン溪谷の美景を賞しつゝ、メインツ、コブレンツ、ボンケルンを経てデュツセルドルフにつく、専用自動車道ニユルブルグリングがある。此所からライン工業地帯を視察しブレーメンに向ふ、ハンブルク、ルベツクを見、メクレンブルク地方ブランデンブルグ地方を見てブルリンに向ふ。自動車道として最初の施設フランクフルトとダルムスタット及ボン・ケルン間、ケルン・デュツセルドルフ間及びハンブルク・ルベツク間がある。

## 第三班、獨逸南東部、ザクセン及シレシア

本班は八日夜汽車でケムニツクに向ふ。バスでザクセン山岳地方を回遊しライプチヒ、ドレスデンにゆく、舊き文化學藝の都である。更にシレシアに向ひ、冬季スポーツの都、ブレスラウ、フランクフルトアムオーデルを経てオーデル河の河口ステツチンにつき、大學都市ロストツクを経てベルリンに向ふ。

自動車道はドレスデン、チムニツツメーラン間、ブレスラウーリーグニツツ間、ベルリン・ステツクチン間。

## 第四班、ババリア候領、部獨逸

本班は東ババリアの下ナウ流域、パツソー市に至り、ババリア森林地帯を見てレーゲンスブルクに向ふ。舊都ネルドリンゲン、デンケルスブユール、ローテンブルグを経てウルツブルクに向ふ。更にキシングン冷泉、アイゼナハを経てエルフルトに向ふ。之よりゲーテの町ワイマール、中部工業地帯メルセブルグ、ハルを見、北ドイツの丘陵地帯にゆく、中世紀の文化ゴスラル、ヒルデスハイム、更にウエ



ワルドを経て、セントブラジエン、バーデン、ウイルドバツドを視てスツツトガルトにゆく、更にハイデルベルグ、フランクフルトアムメイン、ウイスバーデン、學都ギーゼン、マールブルグ、更にカツセルにゆく、アイゼナハの迂回道路を視察し、汽車でベルリンに向ふ。

各班とも道路工事、橋梁工事、河川運河、水力工事をも

視察する豫定である。

九月一八日には總てベルリンに集り、午後八時三十分、招待會がある

十九日は、午後三時三十分、道路會議の閉會式を宰相の主催でオペラ劇場で行ふ。午後五時、同じく宣傳大臣の招待があつて解散する豫定である。

## 自動車道の免租に就て

大 矢 寧 明

我國に於ける自動車交通事業は急速なる發展を見、從て近時自動車道の開設漸く多きを加へたのである。即ち全國各地に於て認可された自動車専用道路は現在貳拾六線二四六・三〇料を算するに至つた。又國營としても積極的の計畫があると傳へられてゐる、尙今後民間に在つても此種の

經營は漸次増加することと思ふ然して之が經營には土地の買收其の他幾多の施設と巨額の建築費を要する次第で道路の構造並に保安設備等は自動車交通事業法に依り鐵道用地、軌道用地と何等選ぶ所がないのである。

抑自動車道とは如何なるものを指すかと云ふに自動車交